

「ひかり電話オフィスタイプ」を直収 業界初の通信機器で販売に活路を開く

現場での使いやすさを追求し、市場の声に合わせた製品開発で注目されるアレクソンが、「ひかり電話オフィスタイプ」を直収した多機能通信システムを発表した。「BCT東京2007」ではこの注目の新製品「IPV721」を出品するほか、既存のビジネスホンを活かしIP電話サービスを簡単に接続できる機器など、通信業界のプロも納得できる製品を揃え展示をする。

「ひかり電話オフィスタイプ」は中小規模の企業へ販売しやすい通信サービスとして、このクラスの企業を主力のターゲットとしている販社や、通信機ベンダーから注目されている。例えば、3Ch(アナログで3回線相当)で導入を検討した場合、ISDN回線(INSネット64)でWeb接続した構成と比較して、試算ではランニングコストが約15%ダウンする。しかも、フレッツのブロードバンド回線も利用できるために「お得感」を感じさせる、現在のところ切り札と言ってよい提案しやすいサービスだ。

アレクソンでは「BCT東京2007」で「ひかり電話オフィスタイプ」を直収接続する新製品、多機能通信システム「IPV721」を出品、来場者にはその真価を問うつもりだ。

その「IPV721」の特長を示すと以下ようになる。

(1)ビジネスホンの接続

INSネット64のU点で他の通信機器と接続できるために、既存のビジネスホンとの接続や工事が簡単で、普通の電話から「ひかり電話オフィスタイプ」への移行をスムーズに行える。

(2)構内放送との連動

国内で発売されるアレクソン指定の主なメーカーの構内放送システムと連動できる。

(3)アナログ機器との接続

FAXなどのアナログ機器を「ひかり電話オフィスタイプ」とINSネット64という2つの外線を切り替えて使用で

きるため、トラブル時のバックアップ対応ができる。

(4)豊富な機能

「IPV721」はルーターとしても使える機能をもつほか、コールバックや着信転送等も備えており、保守を容易にするリモートメンテナンスもできる。

以上のような機能をもつために「IPV721」は「ひかり電話オフィスタイプ」だけでなく、オフィスのコミュニケーションに必要な、通信機器やアプリケーションを活用できる環境を簡単に作ることができる。

通信費の削減とブロードバンドの活用という2つを合わせてトータルコストを削減し、利便性を高める「ひかり電話オフィスタイプ」の狙いを最大限に発揮できる製品といえる。

とはいえ、中小規模のユーザー企業ではまだブロードバンドを活かす知識は不足している。この展示会で「ひかり電話オフィスタイプ」を使い、新たな通信機器やサービス需要を発掘できるパートナーとなる企業と、この展示会でビジネスチャンスが生まれることを同社では期待している。

市場を見据え開発した製品を出品

アレクソンではその他にも、「IPV721」より先行して発表された「ひかり電話オフィスタイプ」対応機器と接続できる「IPV3」、無線LAN携帯電話と接続できる「IPM30」と2つの通信機器のほか、「ひかり電話オフィスタイプ」だけでなく050IP電話サー



多機能通信システム「IPV721」

ビスやISDN回線の良い所どりで企業内の電話を運用できる「HCA7700」や「HFA7000」といったひかりマルチラインシステムなど、同社の10年以上にわたる通信機器の販売・サポートとノウハウを活かした製品群を展示する。

アレクソンでは今後、メールサーバーやCTIサーバーとの連携や多機能通信機器について検討しているという。この展示会では、中堅中小企業でのネットワーク高度利用に同社が貢献する姿をみせるつもりでいる。

お問い合わせ先

株式会社アレクソン

営業部
 西日本営業グループ：072-777-1584
 東日本営業グループ：03-3667-2276
<http://www.alexon.co.jp/>

外観及び機能は開発中のものであり、予告なく変更する可能性があります。